

2020年7月8日

<NEWS RELEASE>

WILLER 株式会社
モービルアイ

WILLER とモービルアイが日本・台湾・ASEAN における 自動運転ソリューションの提供に向け協業

WILLER 株式会社（本社：大阪府大阪市、代表取締役：村瀬茂高）とインテル子会社のモービルアイ（本社：イスラエル エルサレム、CEO：Amnon Shashua）は、本日7月8日、日本、台湾およびASEAN におけるロボタクシーソリューションを提供するための戦略的パートナーシップを発表しました。まずは日本からスタートし、モービルアイの自動運転技術を用いた実証実験からサービス展開までを目指します。



インテル コーポレーション 上席副社長、モービルアイ 社長 兼 CEO（最高経営責任者）アムノン・シャシュアは「モービルアイが拡大中のグローバルモビリティネットワーク及びエコシステムパートナー構築において、WILLER との協業の合意は非常に重要な意味を持っています。日本、台湾、およびASEAN 市場にて、WILLER とともに自動運転技術を活用した新しいモビリティを提供していけることを非常に楽しみにしています。」と述べています。

WILLER 代表取締役の村瀬茂高は「モービルアイとの今回のコラボレーションが、WILLER の目指す『行きたい時に、行きたい場所へ行ける移動』を実現可能にする協業であり、非常に価値が高い協業であると考えています。数年先、便利で環境に優しい新たな移動ソリューションを創造し、それによってシティバリューを上げる“場所”と“移動”に変革が起き、これまで以上に、人と人、人とまちが繋がる豊かなコミュニティが創造されていくことを期待しています。」と述べています。

戦略的パートナーシップでは、ロボタクシー（※1）や自動運転シャトル（※2）の日本における商用化を目指し、それぞれの強みを活かして、モービルアイが自動運転技術と自動運転車両の提供を、WILLER がそれぞれの地域やユーザーに合わせたサービスデザインと、それぞれの地域における規制要件の整理やモビリティの管理、運行会社向けのソリューション開発を担います。

まずは、2021年に日本の公道で自動運転走行でのロボタクシーの実証実験を開始し、2023年には完全自動運転でのロボタクシーと自動運転シャトルのサービス開始を目指し、台湾やASEAN においてもサービス展開を目指します。

モービルアイは、WILLER と協業していくことで、MaaS 展開をグローバルに前進させていけると考えています。モービルアイが完全なモビリティ・プロバイダーになる意思を表明して以来、モービルアイは世界中の自治体、交通事業者、モビリティテクノロジー提供企業と協業を開始し、主要な市場の一部では自動運転技術を提供する取り組みを続けてきています。モービルアイの自動運転技術を活用した事例の一部をご紹介します。韓国テグ市とはロボタクシー事業を開始することで合意しました。イスラエルではフォルクスワー

ゲン社・チャンピンモーターズ社と合意し、3社で合併企業を設立し、自律走行車を用いたライドヘイリングを実施する予定です。WILLERとの協業の合意は、これまで構築してきているMaaSの取り組みを大きく拡大・強化させていくものと考えています。

WILLERは、日本、台湾およびASEANにおいて、それぞれの交通事業者が提供しているサービスを、共通化したひとつのサービスとして利用できるようになることを目指しています。この試みのスタートとして、日本で2019年にMaaS Appをリリースし、2020年からはQRシステムによる鉄道や路線バス等の決済を可能にしています。また、交通プラットフォームとして、日本では既に約150社の交通事業者と連携しており、台湾で都市間バス最大手の国光汽車客運と、ベトナムでタクシー最大手のマイリンとジョイントベンチャーを設立。シンガポールでは、カーシェア最大手のCar Clubに出資しています。今回のモバイルアイとの協業により、これらの交通プラットフォームに自動運転技術による新たなモビリティサービスが拡充され、顧客の利便性に大きな変革をもたらすと考えています。

両社のコラボレーションは、高速バスや鉄道、カーシェアリングなどの既存のビジネスポートフォリオに新しい交通サービスをもたらします。これまでの交通サービスに自動運転サービスやオンデマンドのシェアリングサービスを加えることで、これまでの顧客の乗車体験を向上させることはもちろん、大きな社会課題になっている環境問題の改善や交通事故と交通渋滞の削減につながります。また、日本においては、高齢化社会における移動に関する課題やドライバー不足などが改善されます。WILLERとモバイルアイのコラボレーションにより自動運転技術の社会実装が加速し、それによって日常生活の質が向上し、よりスマートになると考えています。同時に、安全でかつ持続可能な社会をもたらすことに貢献します。

以 上

(※1) ロボタクシーとは完全自動運転による無人で運行するタクシー

(※2) 自動運転シャトルとは完全自動運転によるオンデマンド型シェアサービス

■WILLERとは

社会貢献度の高い移動ソリューションを開発することを目指し、1994年にWILLERを創立。独自のITマーケティングシステムを開発し、新たな価値を創造する移動サービスを開発しています。

このITマーケティングシステムを活用して、日本においては、国内最大級の都市間バスネットワークを持つ「WILLER EXPRESS」や営業キロ114kmの「京都丹後鉄道」の運行、地域の魅力をつなぐレストランバスの運営を行っています。

直近5年間は、交通のサービス化(MaaS)を日本、台湾、ASEANにおいて開発しています。具体的にはMaaSアプリ「WILLERS」をサービスリリースし、マルチモーダルな交通の検索、予約、決済を可能としています。またASEANにおいては、シンガポールのGardens by the Bayでの自動運転の商業化運行、ベトナムでのタクシー配車アプリの提供および、日本品質の都市間移動バスとオンデマンドシャトルを組み合わせたドア to ドアのモビリティサービスを提供しています。

■モバイルアイとは

インテルの子会社であるモバイルアイは、先進運転支援システム(ADAS)や自動運転のためのコンピュータービジョンと機械学習、データ解析、ローカリゼーション、マッピング(高精度地図)の技術を提供するグローバルリーダーです。これらの市場展開を通じて完全なモビリティ・プロバイダーになることを目指し、交通事故の減少、ドライバーや搭乗者およびロードユーザーの安全を守ることをミッションにしています。モバイルアイ独自のソフトウェア・アルゴリズムとEyeQ®チップは、路上の車両、人、障害物などとの衝突

の可能性を予測するために、画像による包括的な認識を実現しています。また、モービルアイの製品は、車線、道路境界、分離帯などの道路上のエレメントを検出し、交通標識や方向標識、信号などを識別します。さらに REM™を活用して、ローカライズされた運転可能な経路や視覚的な目印オブジェクトが示されたロードブック (RoadBook™) を作成し、自律走行のための地図も提供します。なお、モービルアイの製品は世界で 27 社を超える自動車メーカーに搭載され、アフターマーケット向けの製品も提供しています。